令和８年度全国学力・学習状況調査の結果について

勝浦小

１．全国学力・学習状況調査の目的

○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること。
○学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てること。

２．全国学力・学習状況調査の内容・実施時期

調査対象	第６学年	実施期日	令和８年４月 23 日（全国一斉）
調査内容	○教科に関する調査：【国語】【算数】 ○生活習慣や学校環境に関する質問紙調査 →児童に対する調査、学校に対する調査		

３．全国学力・学習状況調査（６年生）の結果

（１）各教科の平均正答率

本校の平均正答率を全国と比較すると、国語・算数とも全国の平均とほぼ同じでした。

昨年度と比べると、国語は昨年度を上回る正答率となりました。算数は昨年度を下回ったものの全国平均を維持しています。今後は、さらに個に応じた学習を充実させていきます。

（２）児童質問紙の主な回答状況

①認め合い、鍛え合い、創造する子ども

- 「将来の夢や目標を持っている」という項目について、肯定的な回答をしている児童の割合は全国・福岡県と比べて上回っています。
- 「自分には、よいところがあると思う」という項目について、肯定的な回答をしている児童の割合は全国・福岡県と比べてほぼ同じです。

②規範意識や社会性を身に付けた子ども

- 「平日の家庭学習時間が１時間以上の児童・生徒」という項目について、肯定的な回答をしている児童の割合は、全国と比べると下回っており、福岡県と比べると上回っています。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」という項目について、肯定的な回答をしている児童の割合は全国・福岡県と比べてほぼ同じです。

③福津のよさに学び、貢献する子ども

- 「人の役に立つ人間になりたいと思う」という項目について、肯定的な回答をしている児童の割合は全国・福岡県と比べてほぼ同じです。
- 「地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思う」という項目について、肯定的な回答をしている児童の割合は全国・福岡県と比べてやや下回っています。

（３）今後の方針

国語の「話すこと・聞くこと」において、「資料を活用して、自分の考えが伝わるように

表現を工夫すること」に苦手さがありました。また、算数においては「測定」で、「示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めること」に苦手さがありました。

各教科において、示された資料や情報から必要な内容を整理・選択し、それらを基に自分の考えをもち、根拠を明確にして表現する学習活動を充実させます。その際、図や表、グラフ等を活用して情報や数量の関係を捉えたり、相手に伝わるように表現を工夫したりする活動を意図的に取り入れ、思考力・判断力・表現力の育成を図ります。

また、家庭学習の時間が短い児童が多いことが課題として見られました。今後は、家庭学習チャレンジウィークの取り組み方を工夫するとともに、家庭とも連携しながら、児童が家庭で学習する習慣の定着を図っていきます。学校生活や地域と関わる学習の中で、児童が自ら考え、行動に移す機会を意図的に設定し、「思い」を具体的な「行動」につなげる経験を積み重ねていきます。

学力調査の結果は全ての学力を示すものではなく、学力の特定の一部です。この結果を生かし、本校の重点目標である「自己表現を核に、非認知能力を土台とした主体的に学ぶ子どもの育成」の達成に向けて、取り組んでまいります。